

**頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム**  
**—アジア・アフリカ持続型生存基盤研究のためのグローバルプラットフォーム構築—**  
**報告書**

**アジア・アフリカにおける持続型基盤の発展に寄与する  
ものづくり研究の可能性**

派遣者：金子 守恵

派遣期間：2013年8月11日～9月10日

派遣先：アジスアベバ大学南オモ研究所（エチオピア連邦民主共和国）

キーワード：博物館、特別展示、地域、都市計画、子ども

**1. 研究課題について（400字程度）**

アジア、アフリカに暮らす人びとは、地域の自然環境、コミュニティ内の社会関係、さらには外部との交流にあわせて、日々の生活に必要なもの（＝日用品）をつくりだしてきた。この研究では、ローカルな技術的実践とグローバルな環境変化や社会的な制度が交差する場としてのものをつくる身体（技法）に注目し、コミュニティにおける知（＝在来知）の共有と配分の過程を描き出すことによって、アジア・アフリカにおける持続型生存基盤の発展に寄与することをめざす。具体的には、①調査研究、②共同研究／協働、③研究発信の3点に留意して研究課題を遂行する。今年度は、①エンセーテの生産や消費、交換に関わる知や技法についての調査研究、②エチオピアにおける博物館での特別展示に関する共同研究、そして③国際ワークショップや派遣先機関でのセミナーや講演会での発表を中心に研究発信をおこなう。

**2. 派遣の内容（400字程度）**

2013年8月11日～9月10日にかけて、アジスアベバ大学南オモ研究所に渡航した。今回の渡航は、今年度計画している研究活動のなかでも、②エチオピアにおける博物館での特別展示に関する共同研究に関をすすめることであった。この特別展示では、南オモ研究センター・博物館の所長はじめ博物館スタッフの協力と、これまで調査をおこなってきた村の人びとの協力のもとに、この地域の主食作物のひとつであるエンセーテについて特別展示準備をおこなった。またこの特別展示の開催初日（9月1日）には、調査地域で民族音楽活動をおこなっている地元の音楽家やダンサーなどにも参加してもらったほか、博物館周辺の人びとも数多く参加してもらい、これまでの成果を広く調査地域周辺の人びとに発信することができた。この特別展示は、およそ半年間開催予定である。

**3. 派遣中の印象に残った経験や体験（800字程度）**

今回の派遣中に印象に残った経験や体験は、大きく2点ある。ひとつは、エンセーテの特別展示を開催し、調査地域周辺の人びとも参加してもらった際に、周辺地域に暮らす人びとが、エンセーテの植物学的特性や利用の仕方についてほとんど見識がなかったことであった。博物館の主な訪問者は、海外からの観光客が主であるが、周辺地域の人びとの暮らしについての理解につながったと考えられる。また、今回取り組んだ特別展示は、村の子供たちはじめ多くの人々の協力のうえに実現したものであるが、博物館のスタッフなどを中心に、周辺地域に暮らす人々が参加・協力しやすいしくみをつくっていけば、継続的な活動に取り組む事が可能になるのではないかと考えはじめた。

ふたつめは、これまで調査活動の拠点としてきた地域で6月ころから都市計画化が実施され、車両専用道路の拡張および区画整備などがはじまり、これまでこの地域の景観の中心となってきた庭畑のエンセーテや在来の樹木がほとんど伐採されてしまった。これによって、都市計画の対象地域に暮らしている人びとは、その生計の基盤となる資源がまったくなくなってしまう。がんらいこの地域は、自給的な農業に従事する人の割合が高く、商業活動を中核とした都市（町）づくりよりも、田園型の都市デザインをおこなうのにふさわしい地域と考えられる。この出来事を契機に、市や郡、県などの行政と、エンセーテを基盤とした観光の中心とした活動の実現可能性について議論することとなった。このことは、現在まさに進行中のことであるので、その過程の記録とこれまで村の人々と取り組んできた活動を含められるような地域のデザインの確立に関わっていきたいと考えている。

#### 4. 目的の達成度や反省点（400字程度）

今回は、特別展示を準備し、開催することが大きな目的であり、その点についてはほぼ達成できたものと考えている。博物館のスタッフとの議論や彼らの協力により、この特別展を1回目として今後継続的に開催することも博物館の活動計画にふくめてもらうことができた。展示の仕方については、地域内で入手できるような簡便な装置を作成することができたので、今後もこの方法で継続的に特別展示が開催できると考える。また、広く広報活動をおこなってもらったことにより、県ばかりではなく、郡や村の行政にたずさわる人びとにも参加してもらうことができた。反省すべき点は、それほど多くの地元の人たちに参加してもらえなかった点にある。博物館周辺地域に暮らす子どもたちや、この博物館に併設されている図書館などに通っている子供たちは参加してもらえたようだが、成人が訪問しやすい、また彼らにとって魅力的な活動をつづけていく必要があることを実感した。

#### 5. 今後の派遣における課題と目標（400字程度）

今後は、今回の展示の過程をまとめて、アジスアベバ大学エチオピア研究所が11月に開催する予定で企画をすすめているアフリカの博物館についての国際ワークショップで発表する予定である。また、11月以降に南オモ研究センター・博物館において、次回の特別展の準備に取り組む予定をたてている。今回の渡航において、実践的な活動と研究を架橋する特別展示に取り組んだが、次回は、モノの履歴やモノをめぐるストーリーについての展示を念頭において、南オモ県に暮らす人びとにとって重要なモノをいくつか収集し、それを展示することを考えている。



写真1 エンセーテ繊維を使って紙を漉き、その上に生活場面におけるエンセーテの絵を描いてもらう



写真2 子どもたちの描いた絵の配置を確認する



写真3 エンセーテの繊維で縫ったひもを天井からつりさげて、展示のスペースをつくる



写真4 右手にエンセーテの植物学的特徴についてのクイズと生活場面における利用の仕方について展示。左手には、子どもたちの描いた絵を展示し、来館者に投票してもらうようにした。



写真5 9月1日に特別展開催の式典を開催。県知事など行政にかかわる人や博物館や図書館を利用している子どもたちなどが来場した。